

FIMF 合同フォーラム 2008

「腸内共生菌と食の機能」

平成 20 年 11 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) 東京大学 安田講堂

[トップページ](#) 開催情報※10月22日現在
10月22日: 後援追加
9月23日: 後援追加名称 : FIMF 合同フォーラム2008 「腸内共生菌と食の機能」
: Function of Intestinal Microbiota and Food

テーマ : 腸内共生菌と食の機能

会期 : 平成20 年11月20日(木)~21 日(金)

会場 : 東京大学 安田講堂

大会長 : 上野川修一(日本大学)

実行委員長 : 伊藤喜久治(東京大学)

合同主催 (財)日本ビフィズス菌センター
日本乳酸菌学会
日本食品免疫学会
日本動物細胞工学会
(社)日本生物工学会乳酸菌・腸内細菌工学研究部会協賛 (独)科学技術振興機構
(財)バイオインダストリー協会
(社)日本農芸化学会
(社)日本薬学会
(社)日本獣医学会
日本細菌学会
(社)日本畜産学会
日本ゲノム微生物学会後援 文部科学省
農林水産省
厚生労働省 大会事務局(有)アイベック内 FIMF合同フォーラム事務局
東京都豊島区巣鴨1-24-12
TEL:03-5978-4067
FAX:03-5978-4068

「腸内共生菌と食の機能」

平成 20 年 11 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) 東京大学 安田講堂

[トップページ](#) > [大会長挨拶](#)

大会長挨拶

大会長 上野川 修一

平成 20 年 11 月 20、21 日の二日間開催されることになりました FIMF 合同フォーラム 2008 では、「腸内共生菌と食の機能」をメインテーマに国内外の腸内フローラ、食品機能の研究者にご講演をお願いして、最先端の健康科学をご紹介いただくことを意図したものです。

この 10 年間に、新たな研究技術の開発により腸内フローラ、機能性食品に関する研究は急激に発展し、国民の健康志向とあいまって、ヒトの健康にとって腸内フローラや機能性食品の重要性が認識されてきました。国内でも医療費の増加による財政の圧迫、高齢者社会での健康・長寿、生活習慣病の予防などの問題に腸内フローラや機能性食品を利用した日常生活からの健康維持は不可欠のものとなってまいりました。

腸内フローラや機能性食品の研究は長年にわたり日本がリードしてきた分野です。しかし、まだまだこれらの機能に関して多くのブラックボックスが残されており、その実態を掌握し、我々の手でコントロールできるまでには至っておりません。

ここ数年のヨーロッパ諸国ならびにアメリカ合衆国では腸内フローラの機能研究に多くの予算が計上され、国家レベルでの戦略が展開されております。日本でも JST や JBA などプロジェクトが企画されておりますがまだスタートには至っておりません。このような状況の中、日本ビフィズス菌センター、日本乳酸菌学会、日本食品免疫学会、日本動物細胞工学会、日本生物工学会乳酸菌・腸内細菌工学研究部会の五つの関連する学会が合同でフォーラムを開催することになりました。

開催の目的は、腸内フローラ、機能性食品研究の現状と今後の方向性について、日本としての戦略を考える上で共通の認識を得ること、さらに科学技術の発展に伴い、新たな研究戦略を立てる上で有用な情報を得ることにあります。単に研究に留まらず、産業分野にも大きな発展が期待できるような成果があげられるよう是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

「腸内共生菌と食の機能」

平成 20 年 11 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) 東京大学 安田講堂

[トップページ](#) > [プログラム](#)

📅 [プログラム](#) 🎧 (同時通訳あり)

※10月14日現在の予定です。

10月14日	講演時間追加
9月23日:	一部タイトル追加
7月22日:	一部タイトル追加
7月9日:	一部演者変更

特別講演 11月21日(金) 9:30 - 10:20

Toll-Like Receptorと粘膜免疫
審良静男(大阪大学)

シンポジウム 11月20日(木)

セッション1. 腸内共生菌の機能、食品機能に関する研究動向

9:20 - 10:10

食と腸内共生菌

上野川修一(日本大学)

10:10 - 11:00

Research for the 21st Century : Can We Draw a Blueprint of the Bowel Ecosystem ?
G. Tannock(University of Otago, New Zealand)

11:00 - 11:50

Interactomics in the intestine

E. Zoetendal(Wageningen University, The Netherlands)

セッション2. セルシグナリング

13:00 - 13:50

Bacteria-Epithelium Cross-Talk

N. N. Nanthakumar(Harvard Med. School, USA)

13:50 - 14:40

乳幼児期の腸内フローラの群集構造と宿主免疫系への影響
中山二郎(九州大学)

セッション3. 腸内共生菌のメタゲノム

15:00 - 15:50

メタゲノム解析から見える腸内細菌叢の全体像
服部正平(東京大学)

15:50 - 16:40

MetaHIT, The European Project on Metagenomics of the Human Intestinal Tract
D. Ehrlich(INRA, France)

16:40 - 17:30

What Have Been Revealed After Whole Genome Analysis of Bifidobacterium and Lactobacillus?

R. D. Pridmore (Nestle, Switzerland)

シンポジウム 11月21日(金)

セッション4. 粘膜免疫

10:20 - 11:10

Intestinal Microbiota and Allergy

B. Bjorksten (Karolinska Institutet, Sweden)

11:10 - 12:00

Mechanisms of Host Defense with the Microbiota

C. O. Elson (University of Alabama at Birmingham, USA)

セッション5. 腸内共生菌の代謝と宿主

13:00 - 13:50

ビフィズス菌のオリゴ糖代謝に関わる酵素の解析

山本憲二(京都大学)

13:50 - 14:40

腸管レセプター、特に短鎖脂肪酸受容体の大腸機能制御に対する役割について

桑原厚和(静岡県立大学・環境科学研究所)

14:40 - 15:30

Analysis of Carbohydrate Fermentation by Intestinal Microbiota Using TIM-2

K. Venema (TNO, The Netherlands)

パネルディスカッション 11月21日(金) 15:50-16:50

「腸内共生菌と食の機能」研究—これからどうする日本？

司会: 宮田 満(日経BP 社)

パネラー

上野川修一 ((財)日本ビフィズス菌センター 理事長

日本食品免疫学会 会長)

山本憲二(日本乳酸菌学会 会長)

清水誠(日本動物細胞工学会 会長)

横田篤((社)日本生物工学会乳酸菌・腸内細菌工学研究部会 部会長)

伊藤喜久治(FIMF合同フォーラム2008「腸内共生菌と食の機能」

実行委員長)

桑田有(ILSI Japan副理事長)